

## 貸借対照表

(2017年3月20日現在)

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
I 流動資産		III 流動負債	
1 現金預金	3,024,669,419	1 買掛金	1,872,399,145
2 供給未収金	3,897,754,336	2 コープ東北買掛金	6,015,211,299
3 割賦未収金	155,487,145	3 当座借越金	2,700,000,000
4 商 品	3,020,725,411	4 短期組合員借入金	2,540,160,000
5 立 替 金	235,179,784	5 1年内返済予定の 長期組合員借入金	2,428,681,974
6 貸付事業貸付金	300,729,076	6 1年内返済予定の 長期借入金	1,352,236,000
7 関係団体貸付金	330,000,000	7 短期リース債務	1,055,568,376
8 子会社等貸付金	1,494,030,000	8 未 払 金	633,704,625
9 未 収 金	2,515,139,984	9 未払法人税等	25,030,000
10 コープ東北未収金	28,733,180	10 未払消費税等	312,414,300
11 その他	43,800,280	11 未払費用	2,360,625,556
12 貸倒引当金	△ 41,473,567	12 前 受 金	36,525,502
流動資産合計	15,004,775,048	13 前受収益	8,982,987
II 固定資産		14 預 り 金	2,121,436,056
A 有形固定資産		15 ポイント引当金	300,414,100
1 建 物	32,287,494,901	16 賞与引当金	449,584,340
減価償却累計額	△16,560,697,687	17 地震災害損失引当金	88,000,000
2 構 築 物	3,858,104,151	18 その他	121,700,404
減価償却累計額	△ 2,460,511,487	流動負債合計	24,422,674,664
3 機 械 装 置	3,772,131,066	IV 固定負債	
減価償却累計額	△ 2,025,586,268	1 長期借入金	5,306,744,000
4 車 輛 運 搬 具	230,435,231	2 長期組合員借入金	14,617,117,504
減価償却累計額	△ 204,555,670	3 長期リース債務	1,759,143,430
5 器 具 備 品	4,460,398,440	4 預り保証金	710,389,280
減価償却累計額	△ 3,312,551,692	5 預り建設協力金	127,659,986
6 リース資産	3,827,134,621	6 長期資産除去債務	314,350,551
減価償却累計額	△ 2,095,282,697	7 退職給付引当金	1,444,278,986
7 土 地	27,346,295,199	固定負債合計	24,279,683,737
8 建設仮勘定	3,109,012,990		
有形固定資産合計	52,231,821,098	負債合計	48,702,358,401
B 無形固定資産		(純資産の部)	
1 借 地 権	906,271,741	V 組合員資本	27,813,958,600
2 ソフトウェア	271,042,396	A 出 資 金	
3 電話加入権	33,128,150	B 剰 余 金	
4 水道施設利用権	29,378,289	1 法定準備金	236,000,000
5 その他	229,569	2 震災復興・災害 支援等積立金	467,820,399
無形固定資産合計	1,240,050,145	3 災害等準備積立金	650,000,000
C その他固定資産		4 福祉活動助成金積立金	41,003,700
1 関係団体等出資金	1,491,519,508	5 社会貢献事業積立金	16,516,000
関係団体出資金	1,036,219,500	6 減損損失準備積立金	178,000,000
子会社等株式	454,800,008	7 こーぷ福社会 助成金積立金	100,000,000
2 長期保有有価証券	385,709,697	8 当期末処分剰余金 (うち当期剰余金)	351,120,577 ( 107,732,653)
3 関係団体長期貸付金	870,000,000	剰 余 金 合 計	2,040,460,676
4 子会社等長期貸付金	2,521,200,000	組合員資本合計	29,854,419,276
5 長期貸付金	195,081,735		
6 長期前払費用	93,798,521	純資産合計	29,854,419,276
7 差入保証金	3,556,234,205	負債・純資産合計	78,556,777,677
8 建設協力金	965,942,720		
9 その他	1,145,000		
その他固定資産合計	10,080,131,386		
固定資産合計	63,552,002,629		
資産合計	78,556,777,677		

# 損益計算書

(自 2016年3月21日 至 2017年3月20日)

(単位：円)

科 目	金 額	額
<b>I 供給事業</b>		
1. 供給		102,720,879,282
2. 供給原価		
1. 当期首商棚卸	2,954,996,237	
2. 当期末商棚卸	76,450,495,019	
合 計	79,405,491,256	
3. 期末商棚卸	3,020,725,411	
供給剰余		76,384,765,845
		26,336,113,437
<b>II 生活相談・家計再生支援貸付事業</b>		
1. 生活相談・家計再生支援貸付事業収入		20,535,441
2. 生活相談・家計再生支援貸付事業費用		27,699,525
貸付事業損失		7,164,084
<b>III その他事業収入</b>		
1. 教育文化事業収入	11,170,626	
2. 配達手数料収入	735,061,749	
3. 共済受託収入	846,344,336	
4. テナント料収入	1,111,128,537	
5. その他受取手数料	1,740,843,006	
その他事業収入		4,444,548,254
事業総剰余		30,773,497,607
<b>IV 事業経費</b>		
1. 人件費	14,146,594,185	
2. 物件事業	16,210,203,479	
事業剰余		30,356,797,664
		416,699,943
<b>V 事業外収益</b>		
1. 受取利息	52,716,486	
2. 受取配当	17,345,265	
3. 受取地代	14,677,523	
4. 雑収	287,871,166	
事業外収益		372,610,440
<b>VI 事業外費用</b>		
1. 支払利息	157,153,289	
2. 雑損	86,822,348	
事業外費用		243,975,637
		545,334,746
<b>VII 特別利益</b>		
1. 地震災害損失引当金戻入	77,500,000	
2. 固定資産売却益	4,669,816	
3. 補助金収入	42,227,121	
特別利益		124,396,937
<b>VIII 特別損失</b>		
1. 地震災害損失	140,565,383	
2. 固定資産除却損	181,660,111	
3. 固定資産圧縮損	42,227,121	
4. 減損	172,516,415	
特別損失		536,969,030
税引前当期剰余		132,762,653
法人税		25,030,000
当期剰余	25,030,000	107,732,653
当期首繰越剰余金		24,974,323
福祉活動助成金積立金取崩額		9,250,000
社会貢献事業積立金取崩額		33,484,000
減損損失準備積立金取崩額		172,000,000
震災復興・災害支援等積立金取崩額		3,679,601
当期未処分剰余金		351,120,577

(注) 供給高にはテナントの売上が含まれています。

# 注記

## 1. 重要な会計方針にかかる事項に関する注記

### (1) 資産の評価基準および評価方法

#### ① 有価証券の評価基準および評価方法

満期保有目的の債券……償却原価法（定額法）

子会社株式……総平均法による原価法

その他有価証券……市場価格のあるものは時価法、それ以外は移動平均法による原価法

#### ② 棚卸資産の評価基準および評価方法

商品……売価還元法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。ただし、店舗生鮮商品と共同購入商品については最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）を採用しております。

### (2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

……定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は次のとおりです。

建物 15年～39年 構築物 10年～35年 機械装置 7年～10年

車輛運搬具 4年～5年 器具備品 5年～10年

無形固定資産（リース資産を除く）

……定額法を採用しております。なお、自生協で使用するソフトウェアについては、利用期間（5年間）に基づく定額法としております。

リース資産（所有権移転外ファイナンス・リース取引によるリース資産）

……リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しています。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、2008年3月末日までの契約によるもの（通常の賃貸借取引に準じた会計処理によるもの）は、当期首より該当するものではありません。

長期前払費用……均等償却を採用しております。

### (3) 引当金の計上基準

貸倒引当金……債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については過去の貸倒実績率による回収不能見込額、ほか、貸倒懸念債権および破産更正債権等については、個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

なお、「生活相談・家計再生支援貸付事業」における貸付金債権については、別途、次の基準により計上しております。

#### ① 正常先債権

過去の貸倒実績率0.07%を、対象債権残高全額に対し引き当てています。

#### ② 要注意債権

延滞3ヶ月未満の債権で、かつ、利息のみ返済債権、期限付き返済猶予債権、条件緩和債権および任意緩和債権の条件がともなっているものは、債権額から担保による回収可能見込額を控除した残額に対し5%を引き当てています。

#### ③ 要管理債権

延滞3ヶ月以上6ヶ月未満および不動産売却時一括型の債権については、債権額から担保による回収見込額を控除し、その残額に対し50%を引き当てています。

#### ④ 危険債権

延滞6ヶ月以上の債権、または、延滞6ヶ月以上の債権以外で法的手続きに基づく債権については、その債権額から担保による回収見込額を控除し、その残額に対し70%を引き当てています。

#### ⑤ 破産更生債権およびこれらに準ずる債権

破産申立等の債権については、債権額から担保による回収見込額を控除し、その残額に

対し100%を引き当てています。

#### <付記>

貸借対照表上の流動資産区分に表示してある貸倒引当金は、上記の生活相談・家計再生支援貸付事業にかかる貸倒引当金22,334,384円と、ほかの一般債権にかかる貸倒引当金19,139,183円を合算して表示しております。

ポイント引当金……供給促進をはかるために付与したコープポイントについて、将来使用されると見込まれる金額を計上しております。金額の見積りにあたっては、過去1年超の当生協未利用者は、将来、ポイントを使用される可能性が乏しいためその見積りの対象から外し、毎期末時点で過去1年以内に当生協を利用された方のポイント残数のみをポイント引当金の計上対象としております。

賞与引当金……職員の賞与の支出に備えるため、翌期の支給見込額のうち当期に対応する部分について充当した金額を計上しております。

地震災害損失引当金……2011年3月11日に発生した東日本大震災（2011年4月1日閣議決定名称）ならびに、2011年4月7日に発生したその余震（2011年4月8日気象庁発表「2011年東北地方太平洋沖地震について 第34報」）の影響により、当生協の「被災資産の修繕費用等の見積額（被災資産の取壊除去費用ならびに障害物の除去費用、原状回復費用、被災資産の損壊または価値の減少を防止するための要する費用）」を計上しております。そのほか、震災によるさまざまな事業復旧対応諸費用ならびに震災復興支援費用が発生しておりますが、それらのうち、当期内で債務確定に及んでいないものは本引当金に計上しております。本引当金にかかわる費用および損失は、翌期である2017年度中に生ずる見込みであることから、流動負債の部に計上しております。

退職給付引当金……退職給付会計に関する注記に記載しております。

#### (4) 収益および費用の計上基準

割賦供給高は商品の引き渡し時に剰余金の総額を計上する販売基準を採用しております。

割賦利息だけは未經過分を前受収益として計上しております。

#### (5) その他決算関係書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理は、税抜き方式を採用しております。

なお、控除対象外消費税額は租税公課に計上しております。

## 2. 会計方針の変更に関する注記

該当する事項はありません。

## 3. 表示方法の変更に関する注記

- (1) 純資産における科目表示「こ～ぶほっとわ～く助成金積立金」を「福祉活動助成金積立金」とすることの表示変更  
貸借対照表上の純資産の部において前期まで表示しておりました「こ～ぶほっとわ～く助成金積立金」は、当期において、その助成金の名称を「福祉活動助成金」と変更したことから、当期より「福祉活動助成金積立金」として表示することの変更を行いました。なお、このことにより、損益計算書末尾における当該積立金の取崩しにおいても、「福祉活動助成金積立金取崩額」という名称で科目表示しております。

## 4. 会計上の見積りの変更に関する注記

該当する事項はありません。

## 5. 誤謬の訂正に関する注記

該当する事項はありません。

## 6. 追加情報に関する注記

該当する事項はありません。



## 7. 貸借対照表に関する注記

### (1) 担保に供している資産および担保にかかる債務

① 担保に供している資産		② 担保にかかる債務	
土地	8,537,248,619円	当座借越金	2,200,000,000円
建物	4,138,096,749円	1年内返済予定の長期借入金	831,808,000円
器具備品・機械装置	2,894,391,546円	長期借入金	3,955,384,000円
商品	3,020,725,411円	コープ東北買掛金	6,015,211,299円
長期保有有価証券	4,000,000円	預り保証金	10,000,000円
合計	18,594,462,325円	預り建設協力金	29,000,650円
		合計	13,041,403,949円

岩手県野田村にて行われる「木質バイオマス発電事業」のために設立された(株)野田バイオパワー J Pに対し、当生協は2014年度に株主となり、4,000,000円（普通株式400株／持株比率0.4%）の出資を行っておりますが、この出資払込分は、複数の金融機関が(株)野田バイオパワー J Pとの金銭消費貸借契約および質権設定契約上で有している被担保債権の質権となっております。当該金銭消費貸借契約上の(株)野田バイオパワー J Pにおける債務は、当生協の当期末時点で6,290,000,000円であり、当生協は、保有株式400株を当該債務の質権に供していることとなります。

### (2) 資産にかかる減損損失累計額

有形固定資産の減価償却累計額には減損損失累計額が1,455,041,155円含まれています。なお、土地の減損損失累計額2,770,230,456円と無形固定資産の減損損失累計額74,648,249円、ほか建設仮勘定の減損損失累計額65,299,485円ならびに長期前払費用（その他固定資産）の減損損失累計額15,484,504円は直接控除しております。

### (3) 保証債務等

① 子会社である下記の法人等の金融機関からの借入・社債債務に対して連帯保証を行っております。

(株)宮城県学校用品協会	452,000,000円
(株)コープエステート	902,500,000円
合計	1,354,500,000円

② 子会社である(株)コープエステートが、コープふくしまとの賃貸借契約上の賃料債権769,707,568円（15年間の賃料相当額）分を、金融機関の特定目的会社へ債権譲渡していることに関し、当該特定目的会社はその金融機関から借り入れしている同額の736,000,000円について、当生協は連帯保証を行っております。

③ 事業連合（コープ東北サンネット）の日本生活協同組合連合会に対する商品仕入金債務に対して連帯保証を行っております。  
6,699,636,010円（うち、当生協負担 4,500,145,508円）

### (4) 保証類似の偶発債務に関する注記

事業連合（コープ東北サンネット）がその会員生協に対して有する供給未収金その他の債権が貸倒れとなった場合、当組合はその金額から同事業連合の貸倒引当額を控除した金額の63.30%相当額を同事業連合に対する分担金支払債務として負担することとなります。

当組合以外の会員生協に対する同事業連合の当期末の供給未収金その他の債権は次のとおりであります。（債権については、預り保証金等の反対債権を控除した金額）

コープあおもりに対する債権	467,653,318円
いわて生協に対する債権	1,894,970,676円
生協共立社に対する債権	943,719,690円
コープあきたに対する債権	371,551,062円
コープふくしまに対する債権	1,256,478,776円
コープあいづに対する債権	△ 1,238,236円
福島県南生協に対する債権	2,138,008円
青森県民生協に対する債権	3,581,280円
合計	4,938,854,574円

### (5) 子法人等に対する金銭債権または金銭債務

短期金銭債権	1,697,148,680円
長期金銭債権	500,000,000円
短期金銭債務	72,700,917円

- (6) 関連法人等に対する金銭債権または金銭債務
- |        |                |
|--------|----------------|
| 短期金銭債権 | 13,523,095円    |
| 長期金銭債権 | 2,021,200,000円 |
- (7) 役員に対する金銭債権または金銭債務  
該当する事項はありません。
- (8) 生活相談・家計再生支援貸付事業における貸付金  
当該事業の貸付金は、生協法施行規則第81条3項(1号の「リ」)の主旨にもとづき、流動資産の「貸付事業貸付金」として表示しております。なお、当該貸付金の資金は組合員借入金により調達されております。
- (9) 固定資産圧縮記帳額  
有形固定資産の取得価額から直接控除している圧縮記帳額(簿外資産)のうち、重要なものとして、以下のものがあります。
- |               |         |              |
|---------------|---------|--------------|
| 土地(仙台市宮城野区扇町) | 圧縮記帳累計額 | 118,429,553円 |
|---------------|---------|--------------|

## 8. 損益計算書に関する注記

- (1) 子法人等との取引高
- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 供給高             | 9,533,047円   |
| 仕入高             | 0円           |
| 事業取引以外の取引高(収益額) | 115,239,910円 |
| 事業取引以外の取引高(費用額) | 167,801,623円 |
- (2) 関連法人等との取引高  
該当する事項はありません。
- (3) 特別損益
- ① 地震災害損失引当金戻入益 77,500,000円  
店舗施設等の原状回復修繕費に対する当該引当金の当期首繰越額192,500,000円に対して、当期にて生じた費用および損失27,000,000円と、翌期繰越が必要な当該引当金88,000,000円を控除した残額であります。
- ② 固定資産売却益 4,669,816円  
リサイクルセンター車両の売却差益3,431,832円、共同購入センター(仙台東・仙台西・富谷)車両の売却差益1,197,984円、ほかシステムプリンタのコープ東北サンネットへの売却差益40,000円の合計額であります。
- ③ 補助金収入 42,227,121円  
荒井店の太陽光発電装置3,416,000円と冷凍冷蔵設備に対する補助金27,900,000円、本部SVOコージェネレーション発電機装置に対する補助金10,000,000円、ほか、「コープの森」に対する育成事業補助金、下刈事業補助金の計911,121円の合計額であります。
- ④ 地震災害損失 140,565,383円
- 1) 地震災害損失引当対象外の被災支援費用 87,391,455円  
被災地支援の一環として、共同購入事業における共同購入個配手数料の減免サービス費用であります。
- 2) ほか 53,173,928円  
店舗事業において宮城県沿岸部を中心とした被災地の買物支援をおこなうための、車両運用にかかる費用2,444,913円、「食のみやぎ復興ネットワーク」等の店舗事業としての地域の震災復興にかかる費用および損失45,422,677円、被災地支援のための生活文化活動にかかる費用5,306,338円の合計額であります。
- ⑤ 固定資産除却損 181,660,111円  
当期内の改装事業所における既存資産の簿価除却損82,415,553円ならびに解体撤去等費用90,213,700円、ほか、付属設備・機械装置・器具備品等の周期的な入れ替え撤去による簿価除却損9,030,858円の合計額であります。
- ⑥ 固定資産圧縮損 42,227,121円  
補助金収入(特別利益)に対応する固定資産の圧縮損であります。
- (4) 減損損失  
当事業年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	件数	金額
店舗	土地、建物、その他	2件	172,516,415円

当生協は、事業所における事業活動から生ずる損益が、継続してマイナス又は継続してマイナスとなる見込みである資産グループおよび遊休状態にあり今後の使用目処がたっていない資産グループの帳簿価額を、回収可能価額まで減額し、当期減少額を減損損失として特別損失に計上しています。資産の種類別の減損損失の内訳は以下のとおりです。

資産の種類	事業所数	遊休資産数	金額
土地	1	0	57,023,470円
建物	2	0	95,575,806円
その他	2	0	19,917,139円

なお、資産グループの回収可能性は、正味売却価額と使用価値のうち、いずれか高い方の金額で測定しており、正味売却価額については固定資産税評価額をもとに公示価格相当額又は不動産鑑定評価基準により評価し、使用価値については将来キャッシュ・フローを1.0%で割引いて算定しております。

(5) 法人税等

法人税等には、法人住民税等が計上されております。

(6) 教育事業等繰越金

当期首繰越剰余金には、2015年度決算にもとづく剰余金処分による教育事業等繰越金24,000,000円が含まれております。

(7) 生活相談・家計再生支援貸付事業の剰余金（損失金）の算定

当該事業の損益上の収入は、生協法施行規則第94条第2項の主旨にもとづき、貸付にかかる利息収入（延滞利息収入を含む）、ほか、送金代行手数料等を含めたものとしております。また、損益上の費用は、生協法施行規則第94条第3項の主旨にもとづき、当該事業の貸付金残高相当額の資金調達金額にかかる利息費用、ならびに当該事業にかかる人件費相当額、物件費相当額で構成しております。以上の表示科目は、生協法施行規則第94条第11項に照らし、事業収入を「生活相談・家計再生支援貸付事業収入」とし、事業費用を「生活相談・家計再生支援貸付事業費用」として掲記しております。なお、当該事業の事業収入より事業費用を控除した事業剰余金は、当期においては損失金と算定され、損益計算書上は「貸付事業損失金」として表示しております。当期決算における貸付事業損失金の構成額は次のとおりとなります。

生活相談・家計再生貸付事業収入

貸付金利息収入	20,083,456円
送金代行手数料等	451,985円
合計	20,535,441円

生活相談・家計再生貸付事業費用

借入金利息費用	1,712,273円
事業人件費相当額	17,575,165円
事業物件費相当額	8,412,087円
合計	27,699,525円

貸付事業損失金	差引額	7,164,084円
---------	-----	------------

9. 剰余金処分案に関する注記

(1) 利用分量割戻しの算定基準

当期の剰余金処分案では、利用分量割戻しはありません。

(2) 出資配当の算定基準

出資配当率は消費生活協同組合法（以下「生協法」という）第52条第4項の範囲内による年0.26%（源泉所得税0.053092%を含む／税引後の配当率は年0.206908%）としています。計算方法は当期末時点における組合員メンバーを対象とし、生協法第52条第2項の規定にもとづき、各組合員メンバーの当期末までにおける払込済出資額を基礎に期間配分計算をしております。なお、源泉所得税には「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法（平成23年法律第117号 平成23年12月2日公布・平成25年1月1日施行）」に規定される復興特別所得税が含まれます。

(3) 次期繰越剰余金には、生協法第51条の4第5項に規定する教育事業等繰越金として、8,800,000円が含まれております。

10. 退職給付に関する注記

(1) 採用している退職給付制度

当生協のレギュラー職員（旧呼称正規職員）の退職金規程は、2010年2月28日をもって適格退職年金制度を廃止し、

2010年3月1日より確定拠出年金制度を中核とし、これに日本生活協同組合連合会の企業年金制度を付加する制度に改定しております。なお、嘱託職員・パートナー職員・エリア職員は従来どおりの退職一時金制度を採用しております。

(2) 退職給付債務の計上

レギュラー職員の退職金規定が改定された2010年3月1日の前日（2010年2月28日）に移換した年金資産が、期末自己都合退職要支給額に対して不足したため、その年金資産の不足額については、平均残存勤務年数20.10年にわたる年複利1%（採用した確定拠出年金制度における想定利回り）の割引率を計算基礎とした年度末現在価値995,559,423円（過去勤務債務）を、退職給付引当金として固定負債の区分に計上しております。

また、嘱託職員・パートナー職員・エリア職員については、退職により支給する退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務（簡便法による期末退職要支給額を採用）および退職給付債務の純額を、退職給付引当金として固定負債の部に計上しております。

(3) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（レギュラー職員）

① 期首における退職給付債務	1,005,373,218円
利息費用	38,537,305円
退職給付債務の支払額	48,351,100円
② 期末における退職給付債務	995,559,423円

(4) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（嘱託職員）

① 期首における退職給付債務	16,869,960円
勤務費用	4,453,090円
退職給付債務の支払額	1,036,800円
② 期末における退職給付債務	20,286,250円

(5) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（パートナー職員（B契約パートナー職員））

① 期首における退職給付債務	3,528,187円
勤務費用	17,641円
退職給付債務の支払額	0円
② 期末における退職給付債務	3,545,828円

(6) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（パートナー職員）

① 期首における退職給付債務	321,801,246円
勤務費用	21,684,057円
退職給付債務の支払額	15,831,545円
② 期末における退職給付債務	327,653,758円

(7) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表（エリア職員（旧呼称エキスパート職員が前身））

① 期首における退職給付債務	90,699,696円
勤務費用	10,931,731円
退職給付債務の支払額	4,397,700円
② 期末における退職給付債務	97,233,727円

(8) 企業年金基金制度について

役職員について加入している日生協企業年金基金の概要は次の通りであります。

① 制度全体の積立状況に関する事項

年金資産の額（2017年3月20日現在）	39,323,824,941円
年金財政計算上の数理債務の額（2016年3月末日現在）	32,512,255,000円
差引額	6,811,569,941円

② 制度全体に占める当生協の掛金拠出割合（2017年3月分） 2.65%

③ 補足説明

数理債務の額は2016年3月末日時点、年金時価資産額は2017年3月20日時点で表示しているため、1年のずれがあります。この時点で6,811,569,941円の差引額となっておりますが、2017年3月20日時点では数理債務の額は1年追加されるため、差引額が減少します。なお、2016年3月末日時点の繰越剰余金は5,563,855,845円であり、過去勤務債務残高はありません。



## 11. 資産除去債務に関する注記

### (1) 資産除去債務の概要

当生協は、多数の事業所において、土地所有者の間で賃借期間20年の事業用定期借地権契約を締結していることから、当該不動産賃借契約における賃借期間終了時の原状回復義務に関し、契約で要求されることになる当該資産の除去義務を「資産除去債務に関する会計基準（ASBJ企業会計基準第18号）」に基づく資産除去債務として計上しております。

### (2) 資産除去債務の算定方法

資産除去債務の見積りにあたり、使用見込み期間は15年から34年としており、将来キャッシュ・フローの割引率は、当該資産除去の対象となる固定資産の経済的耐用年数に応じた期間のリスクフリー割引率としております。さらに、その固定資産耐用年数の期間レベルに応じて、割引率は4段階で設定しており、各段階の率の指標は日本利付国債の市場流通利回りを採用しております。なお、「マイナス金利付き量的・質的金融緩和の導入（平成28年1月29日 日本銀行政策委員会・金融政策決定会合）」の影響により、当期末時点では、償還年限が10年までの国債利回りが事実上マイナスとなっておりますが、当注記で示す割引率は、「資産除去債務に関する会計基準（ASBJ企業会計基準第18号）第9項」にもとづき、当期末時点での資産除去債務の当初負債計上時の割引率となっております。当期において、あらたに発生した資産除去債務はありません。

資産除去債務の対象固定資産の耐用年数と、その期間に応じた割引率	10年以内	1.0%
	10年超～20年以内	1.5%
	20年超～30年以内	2.0%
	30年超	2.3%

### (3) 資産除去債務の総額の増減

当年度における資産除去債務の残高の推移は次のとおりであります。

期首残高	307,647,093円
時の経過による調整額	6,703,458円
増加額	- 円
資産除去債務の履行による減少額	- 円
期末残高	314,350,551円

## 12. 税効果会計に関する注記

### (1) 当期末における繰延税金資産の評価

東日本大震災の影響により、当生協は2010年度にて多額の損失を計上し、2011年度での決算関係書類においては予測を超えた商業環境の流動化と消費者動向が、結果として多額の剰余を生み出すことに作用しました。そして、2012年度以降、現在に至るまでおよそ計画水準もしくは計画を一定下回る剰余を計上するに至っております。そのような中で、当生協は震災後の中期経営計画を策定してから3年を経過し、さらに、これ以降の事業計画の方向と可能性をも見定めていくまでに復興した状況にあります。しかし、中期経営計画は当然に経営意思がともなっているものではありませんが、翌期以降も震災後の市場動向は不透明な状況であり、また、中期経営計画自体が地域商業環境の流動状況やかかる復興度合の検証をとまなわせながら進行させていく性格も帯びているという実情もあります。そのような状況であることにより、当期決算における繰延税金資産の将来回収可能性のスケジューリングは、合理的な課税所得の見積もりが困難であり、また、不確実性がある推定となる可能性が残ります。よって、当期の決算においても、前期同様、企業会計原則（一般原則6）保守主義の原則の視点をも考慮し、長期を含む繰延税金資産の全額を計上しないことといたしました。

### (2) 繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

#### ① 繰延税金資産

賞与引当金	125,344,114円
ポイント引当金	83,755,451円
割引券発行済仮受金	7,161,675円
ギフトカード発行済仮受金	13,247,182円
小計	229,508,422円
評価性引当額	△ 229,508,422円
純額	0円

② 長期繰延税金資産

一括償却資産損金算入限度超過額	3,497,513円
減 損 損 失	384,462,824円
資 産 除 去 債 務	51,487,966円
小 計	439,448,303円
評 価 性 引 当 額	△ 439,448,303円
純 額	0円

13. リースにより使用する固定資産に関する注記

- (1) 所有権移転外ファイナンス・リースにより使用する固定資産（2008年3月末までの契約によるもの）に関する注記対象となるリース物件の当期首残高相当額は零であり、当期末における未経過リース料および当期における支払リース料ならびに減価償却費相当額も零となることから、本注記で示す該当事項はありません。
- (2) 貸借対照表上の負債に計上されている「リース債務」には、リース会計基準導入以前（2007年度まで）に固定資産に計上した所有権移転ファイナンス・リース契約に係る未払リース料残高が、以下のとおり含まれております。なお、当期末においては、その対象物件が岩切店と八木山店の2事業所（建物）となります。

短期リース債務	568,869,000円
長期リース債務	684,074,301円
計	1,252,943,301円

14. 金融商品に関する注記

- (1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当生協は各事業を行うための設備投資計画に照らして、必要な資金を主に金融機関借入金もしくは組合員借入金によって調達しております。組合員借入金は用途を明確に限定した上で組合員メンバーに公示しており、余担保能力の範囲内で募集をおこなっております。短期的な運転資金は金融機関借入金により調達しております。また、一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用しています。貸付金については当生協の子法人等に対する短期的運転資金と、必要に応じ、当生協の加盟事業連合における融資制度へ拠出し、同事業連合の他の加盟生協の経営支援を目的とするものとなっています。なお、投機的な取引は厚生労働省令（生協法施行規則第198条）にもとづき行っておりません。

② 金融商品の内容およびそのリスクならびにリスク管理体制

預貯金のうち決済性預金（当座預金等）以外は、いわゆるペイオフ制度により、金融機関の信用リスクにさらされております。そのような中で、定期性預金については金融機関の発行する開示資料（ディスクロージャー誌等）により預入れ金融機関の格付けおよびリスクの程度を判断し、積み立てをおこなっております。供給未収金は顧客となる組合員メンバーの信用リスクがあります。当該リスクについては当生協の利用規程等にもとづき、組合員メンバーの与信管理をおこない、リスクの低減をはかっております。建設協力金や長期貸付金の信用リスクに関しては契約上の担保を十分に設定し、期日管理および残高管理を行う体制をとっております。また、満期保有目的の債券は市場価格の変動リスクの低い国債、地方債、公社債等に限定しており、市場リスク回避を第一義とした運用方針としております。ほか、事業債務や借入金は資金調達にかかる流動性リスクにさらされておりますが、資金繰り計画ならびにキャッシュ・フロー分析などの方法によって管理を徹底しています。なお、いわゆる派生商品といわれる先渡取引、先物取引、オプション取引、スワップ取引およびこれらに類似する取引としてのデリバティブ取引はなく、それらにより生じる債権債務はありません。

③ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価額がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## (2) 金融商品の時価等に関する事項

当期末における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難なもの、重要性が乏しいものは次表には含めておらず、表示しておりません。

(単位：円)

項 目 (資産)	貸借対照表計上額	時 価	差 額
1 現金預金	3,024,669,419	3,024,669,419	0
2 供給未収金および割賦未収金	4,053,241,481	4,053,241,481	0
3 立替金	235,179,784	235,179,784	0
4 貸付事業貸付金	300,729,076	300,729,076	0
5 関係団体貸付金 (短期)	330,000,000	330,000,000	0
6 子会社等貸付金 (短期)	1,494,030,000	1,494,030,000	0
7 未収金およびコープ東北未収金	2,543,873,164	2,543,873,164	0
8 関係団体出資金	1,036,219,500	-	-
9 子会社等株式			
① 子法人等株式	400,800,008	-	-
② 関連法人等株式	54,000,000	-	-
10 長期保有有価証券			
① 満期保有目的の債券	300,419,882	300,000,000	△ 419,882
② 株式	85,289,815	-	-
11 関係団体長期貸付金	870,000,000	870,000,000	0
12 子会社等長期貸付金	2,521,200,000	2,521,200,000	0
13 長期貸付金	195,081,735	195,081,735	0
14 差入保証金	3,556,234,205	-	-
対 象 資 産 合 計	21,000,968,069	15,868,004,659	△ 419,882

(単位：円)

項 目 (負債)	貸借対照表計上額	時 価	差 額
1 買掛金	1,872,399,145	1,872,399,145	0
2 コープ東北買掛金	6,015,211,299	6,015,211,299	0
3 当座借越金	2,700,000,000	2,700,000,000	0
4 短期組員借入金	2,540,160,000	2,540,160,000	0
5 1年内返済予定の長期組員借入金	2,428,681,974	2,428,681,974	0
6 1年内返済予定の長期借入金	1,352,236,000	1,352,236,000	0
7 短期リース債務	1,055,568,376	1,054,512,808	△ 1,055,568
8 未払金	633,704,625	633,704,625	0
9 未払費用	2,360,625,556	2,360,625,556	0
10 長期借入金	5,306,744,000	5,296,130,512	△ 10,613,488
11 長期組員借入金	14,617,117,504	14,617,117,504	0
12 長期リース債務	1,759,143,430	1,757,384,287	△ 1,759,143
対象負債合計	42,641,591,909	42,628,163,710	△ 13,428,199

(注1) 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券に関する事項

&lt;資産&gt;

1. 現金預金 2. 供給未収金および割賦未収金 3. 立替金 5. 関係団体貸付金  
6. 子会社等貸付金 7. 未収金およびコープ東北未収金

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と同額または近似しています。よって、当該帳簿価額をもって時価表示としております。

8. 関係団体出資金 10. 長期保有有価証券 (②株式) 14. 差入保証金

将来キャッシュ・フローを合理的に見積もることが困難なため、時価開示の対象としておりません。

## 9. 子法人等株式、関連法人等株式

これらは非上場株式であることから市場価額がなく、将来キャッシュ・フローを合理的に見積もることが困難なため、時価開示の対象としておりません。なお、現時点で評価損等の処理をおこなっている（おこなうべき）株式はありません。また、無償減資のリスクにさらされている株式はありません。

## 10. 長期保有有価証券

### ① 満期保有目的の債券

取得価額と債券金額との差額の性格が金利の調整であるものは、償却原価法にもとづき算定された価額を貸借対照表価額としています。時価は取引金融機関等から提示された市場価格としています。種類ごとの貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額は次のとおりであります。なお、当会計年度中に売却した満期保有目的の債券はありません。

(単位：円)

	種 類	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	国債・地方債	99,959,908	100,000,000	40,092
	そ の 他	-	-	-
	小 計	99,959,908	100,000,000	40,092
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	国債・地方債	200,459,974	200,000,000	△ 459,974
	そ の 他	-	-	-
	小 計	200,459,974	200,000,000	△ 459,974
	合 計	300,419,882	300,000,000	△ 419,882

## 4. 貸付事業貸付金 11. 関係団体長期貸付金 12. 子会社等長期貸付金 13. 長期貸付金

これらの長期貸付金ならびに貸付事業貸付金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の貸付を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しておりますが、時価と貸借対照表価額との差額に重要性が乏しいので、貸借対照表価額を時価とみなしております。

## 建設協力金について

① 建設協力金返還債権（以下、単に「建設協力金」という。）は、当生協が店舗建物を賃借するに際して、賃貸人が建物を建築するための資金を低利ないし無利息で当生協が貸付けたもので、賃貸借期間内の長期に亘る分割弁済の約定が付いております。建設協力金に関する契約は、最高裁判例理論（昭和51年3月4日判決）によれば、建物賃貸借契約とは別個の金銭消費貸借であります。日本公認会計士協会の「金融商品会計に関する実務指針（会計制度委員会報告第14号）」（以下「実務指針」という。）は、消費寄託や寄託債権であるなどと述べておりますが（実務指針221.、309.等参照、そのようなことであれば、長期貸付金ではなく長期預け金として計上すべきと考えます。）、この見解は、当生協は採用いたしません。

判例理論によれば、建設協力金の法的性格として、建物賃貸借契約に対する付従性・随伴性を有しません。そこで、その保全のためには万全を期する必要がありますが、当生協の建設協力金契約には、賃貸借の予約契約段階から家賃債務と建設協力金の相殺契約（担保的機能を有する。）が付いており、建物の引渡し後（即ち、先に借家権の対抗要件を具備した後）全ての賃借店舗建物・敷地に抵当権（大部分が一番抵当権である。）の設定を受けています（設定するのは当生協ではなく賃貸人である。実務指針133.参照）。さらに、建物の滅失・毀損のときの保険金請求権に第一順位の質権の設定を受けており、過怠約款（期限の利益喪失約款）までも付いています。また、建設協力金の譲渡・担保提供禁止の特約も付着しています。

建設協力金の上記のような特殊性・金額の重要性に鑑みて、それは金銭消費貸借によるものでありますが、長期貸付金ではなく独立の単独科目で処理し表示しております。

② 建設協力金を時価評価すべき理由として、実務指針は、それが流動化の目的で売却されたときに現在価値で計上していない矛盾が売却損という形で顕在化すると述べ、売却した場合としない場合で整合性のある処理を定める（実務指針309.）ためであるとしています。

しかし、実務指針のような時価評価をしていない建設協力金を売却すれば、必ず売却損が計上される訳ではなく（譲受人が債権譲渡の第三者対抗要件を具備していても、売渡担保（売渡抵当）ということもあり、譲渡契約に買戻し請求や再売買の特約が付いていることもある（むしろこのような場合が多いであろう。）。金融商品に関する会計基準Ⅲ. 2. (1)参照）、また、上述した当生協の建設協力金について、それが売却されて売却損が計上される場合とは、必ずや建物賃貸借関係から離脱し建設協力金の様々な付款も譲受人に移転され、譲渡契約に買戻し請求や再



売買の特約の付いていない場合になると考えられます。逆に、このような売却の仕方をすれば、仮に実務指針のような時価評価をして建設協力金の券面額との差額を長期前払家賃として計上していても、建設協力金の売却時に一度にそれを損失処理しなければならない（売却損が長期前払家賃残高に一致することは普通では考えられない）、通常、当生協は、そのような売却損を計上すべき建設協力金売却をすることはあり得ません。即ち、当生協の建設協力金は、実務指針の時価評価になじまないものと認められます。そこで、当生協は、建設協力金の時価評価をしないこととしました。なお、当期は建設協力金の新規取得はありません。

#### <負債>

1. 買掛金 2. コープ東北買掛金 3. 当座借越金 4. 短期組合員借入金

5. 1年内返済予定の長期組合員借入金 6. 1年内返済予定の長期借入金 8. 未払金 9. 未払費用

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似しています。よって、当該帳簿価額をもって時価表示としております。

7. 短期リース債務 12. 長期リース債務

これらの時価については、契約すべての元利合計額を、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値によって算定しております。

10. 長期借入金

これらの時価については、契約すべての元利合計額を、新規に同様の借入れを行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値によって算定しております。なお、当生協の資金調達にかかる流動性リスク（当生協自身の信用リスク）は、客観的に類推することが困難なため、ASBJ企業会計基準適用指針第19号(38)にもとづき、その評価は加味していません。

11. 長期組合員借入金

当生協の政策上、優位性のある金利設定性格を帯びており、時価評価することは困難なため、時価開示の対象としておりません。

#### <デリバティブ取引>

「金融商品の状況に関する事項」で示しているとおり、当生協ではデリバティブ取引に相当する取り引きはありません。

#### <金銭債権および満期ある有価証券の償還予定額>

(単位：円)

項 目 (資産)	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超	計
現金預金	3,024,669,419	0	0	0	3,024,669,419
供給未収金および割賦未収金	4,053,241,481	0	0	0	4,053,241,481
立替金	235,179,784	0	0	0	235,179,784
貸付事業貸付金	83,100,208	191,235,684	26,393,184	0	300,729,076
関係団体貸付金 (短期)	330,000,000	0	0	0	330,000,000
子会社等貸付金 (短期)	1,494,030,000	0	0	0	1,494,030,000
未収金およびコープ東北未収金	2,543,873,164	0	0	0	2,543,873,164
長期保有有価証券 うち満期保有目的の債券	0	200,459,974	99,959,908	0	300,419,882
関係団体長期貸付金	0	180,000,000	135,000,000	555,000,000	870,000,000
子会社等長期貸付金	27,000,000	226,200,000	135,000,000	2,133,000,000	2,521,200,000
長期貸付金	4,604,435	46,180,444	46,180,444	98,116,412	195,081,735

<長期借入金、リース債務およびその他の有利子負債の返済予定額>

(単位：円)

項目(負債)	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	計
当座借越金	2,700,000,000	0	0	2,700,000,000
短期組員借入金	2,540,160,000	0	0	2,540,160,000
1年内返済予定の長期組員借入金	2,428,681,974	0	0	2,428,681,974
1年内返済予定の長期借入金	1,352,236,000	0	0	1,352,236,000
短期リース債務	1,055,568,376	0	0	1,055,568,376
長期借入金	0	4,148,592,000	1,158,152,000	5,306,744,000
長期組員借入金	0	14,617,117,504	0	14,617,117,504
長期リース債務	0	1,759,143,430	0	1,759,143,430

15. 持分法損益等に関する注記

該当する事項はありません。

16. 関連当事者との取引に関する注記

(1) 会社

(単位：円)

種類	子法人等	取引の内容	当期取引金額	残高の科目	期末残高	総与信額
法人等の名称	㈱宮城県学校用品協会	受取利息	15,044,177	子会社等貸付金	800,000,000	1,252,000,000
所在地	仙台市泉区	その他事業収入	53,113,200			
資本金又は出資金	33,000,000円	短期資金の貸付	50,000,000			
議決権等の所有割合	直接95.0%					
関連当事者との関係	生協グループ					
役員兼任人数	2人					
事業の内容	教材・教具出版物等の販売					

種類	子法人等	取引の内容	当期取引金額	残高の科目	期末残高	総与信額
法人等の名称	㈱コープエステート	受取利息	10,283,373	子会社等貸付金	531,030,000	2,669,530,000
所在地	仙台市泉区	地代家賃	13,200,000	子会社等長期貸付金	500,000,000	
資本金又は出資金	210,000,000円	その他事業収入	4,800,000			
議決権等の所有割合	直接95.0%	短期資金の貸付	231,960,000			
関連当事者との関係	生協グループ (事業所不動産賃貸借)					
役員兼任人数	1人					
事業の内容	不動産賃貸管理・駐車場管理					

種類	関連法人等	取引の内容	当期取引金額	残高の科目	期末残高	総与信額
法人等の名称	㈱コープ東北グリーンエネルギー	長期資金の貸付 (風力発電投資用)	1,930,000,000	子会社等長期貸付金	1,930,000,000	1,930,000,000
所在地	秋田市土崎					
資本金又は出資金	50,000,000円					
議決権等の所有割合	直接40.0%					
関連当事者との関係	生協グループ					
役員兼任人数	1人					
事業の内容	風力発電事業等の運営管理・電力供給					

このほかの関連当事者としての会社間には、本注記として示す重要な取引の内容ならびに重要な残高はありません。  
(取引条件および取引条件の決定方針等)

商品の仕入および費用等の購入その他取引については、市場の実勢価格を勘案して価格を決定しています。なお、上記取引金額については消費税等が含まれておらず、期末残高には含まれています。

## (2) 社会福祉法人

(単位：円)

種 類	関係団体	取引の内容	当期取引金額	残高の科目	期 末 残 高	総 与 信 額
法人等の名称	社会福祉法人こーぶ福祉会	受 取 利 息	2,011,166	関係団体貸付金	300,000,000	1,100,000,000
所 在 地	仙台市青葉区	受取地代家賃	5,745,528	関係団体長期貸付金	800,000,000	
純資産における基本金	232,009,145円	短期資金の貸付	200,000,000			
議決権等の所有割合	—	長期資金の貸付	600,000,000			
関連当事者との関係	生協グループ	長期貸付の返済	10,000,000			
役員兼任人数	2人					
事業の内容	各種福祉施設の運営					

当該社会福祉法人の財務上および業務上の意思決定に対して、当生協は重要な影響力を有していることから、「関連当事者の開示に関する会計基準（ASBJ企業会計基準第11号）第5項(3)(4)」に基づき開示しております。

(取引条件および取引条件の決定方針等)

商品の仕入および費用等の購入その他取引については、市場の実勢価格を勘案して価格を決定しています。なお、上記取引金額については消費税等が含まれておらず、期末残高には含まれています。

## (3) 組 合

(単位：円)

種 類	関係団体	取引の内容	当期取引金額	残高の科目	期 末 残 高
法人等の名称	生活協同組合連合会 コープ東北サンネット 事業連合	商 品 仕 入	67,579,300,586	コープ東北買掛金	6,015,211,299
所 在 地	仙台市泉区	分 担 費	1,773,167,001	未 収 金	39,862,527
資本金又は出資金	9,000,000円	(人件費相当額)	898,099,786	差 入 保 証 金	588,019,854
議決権等の所有割合	直接11.1%	分 担 費		関係団体長期貸付金	70,000,000
関連当事者との関係	仕入先・業務委託先	(物件費相当額)			
役員兼任人数	6人				
事業の内容	会員生協への供給事業および電算処理業務、 店舗・施設企画業務の受託業務				

連合会議決権総数の20%未満所有ではありますが、取引高に重要な影響を与える連合会として開示しています。

なお、当該連合会の子法人等ならびに当該連合会の会員である他の組合とは、本注記として示す重要な取引の内容ならびに重要な残高はありません。

(取引条件および取引条件の決定方針等)

商品の仕入については、当生協のほか8生協でコープ東北サンネット事業連合を設立し、市場の実勢価格を勘案して発注先および価格を決定しています。なお、上記取引金額については消費税等が含まれておらず、期末残高には含まれています。

## (4) 役員およびその近親者

該当する事項はありません。

## 17. 重要な後発事象に関する注記

該当する事項はありません。